

鉄軌道輸送の安全に関わる情報(平成29年度)

〔概要版〕

1. 運転事故

○平成29年度に発生した運転事故は670件(対前年度45件減)、死亡者数は278人(同29人減)でした。(表1参照)

○乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表1：運転事故の件数及び死傷者数(平成29年度)

| | 件数 (対前年度) | 死亡者数 ^{※6} (対前年度) | 負傷者数 ^{※6} (対前年度) |
|-----------------------------|-------------|---------------------------|---------------------------|
| 列車事故 ^{※1} | 13件 (△6件) | 0人 (△1人) | 5人 (△3人) |
| 踏切事故 ^{※2} | 250件 (+27件) | 111人 (+15人) | 58人 (△35人) |
| うち踏切障害に伴う列車事故 ^{※3} | 1件 (±0件) | 0人 (△1人) | 1人 (△2人) |
| 道路障害事故 ^{※4} | 32件 (△11件) | 0人 (±0人) | 10人 (△7人) |
| 人身障害事故 ^{※5} | 368件 (△61件) | 167人 (△44人) | 204人 (△18人) |
| うち線路内立入り等による列車との接触 | 188件 (△42件) | 135人 (△47人) | 54人 (+5人) |
| うちホームでの列車との接触 | 176件 (△11件) | 30人 (+2人) | 148人 (△12人) |
| 物損事故 | 8件 (+6件) | | |
| 合計 | 670件 (△45件) | 278人 (△29人) | 277人 (△60人) |

※1 「列車事故」とは、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。)及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

※2 「踏切事故」とは、踏切障害に伴う列車事故と踏切障害事故をいいます。

※3 「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。合計の件数等は、この重複を除いたものです。

※4 「道路障害事故」とは、踏切道以外の道路において、列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故をいいます。例えば、走行中の路面電車に自動車接触した事故等が該当します。

※5 「人身障害事故」とは、列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故(列車事故、踏切障害事故、道路障害事故を除く)をいいます。

※6 運転事故による死傷者数には、自殺によるものは含めないこととしています。また、自殺行為に直接的に巻き込まれたことにより第三者が死傷した場合についても、同様の扱いとしています。例えば、ホームからの飛び込み自殺により、ホームにいた第三者が巻き込まれるなどといった場合が該当します。

図1：運転事故の件数及び死傷者数の推移

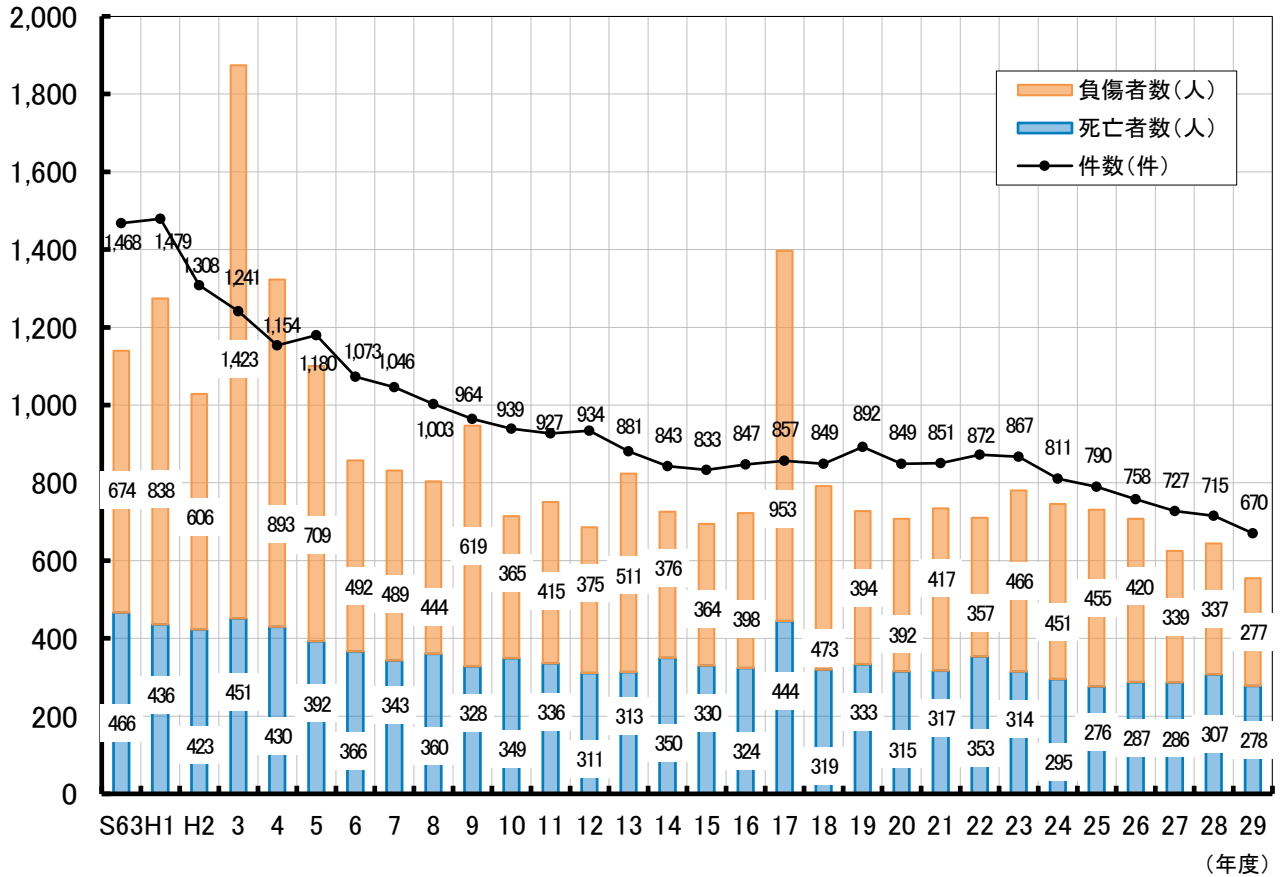
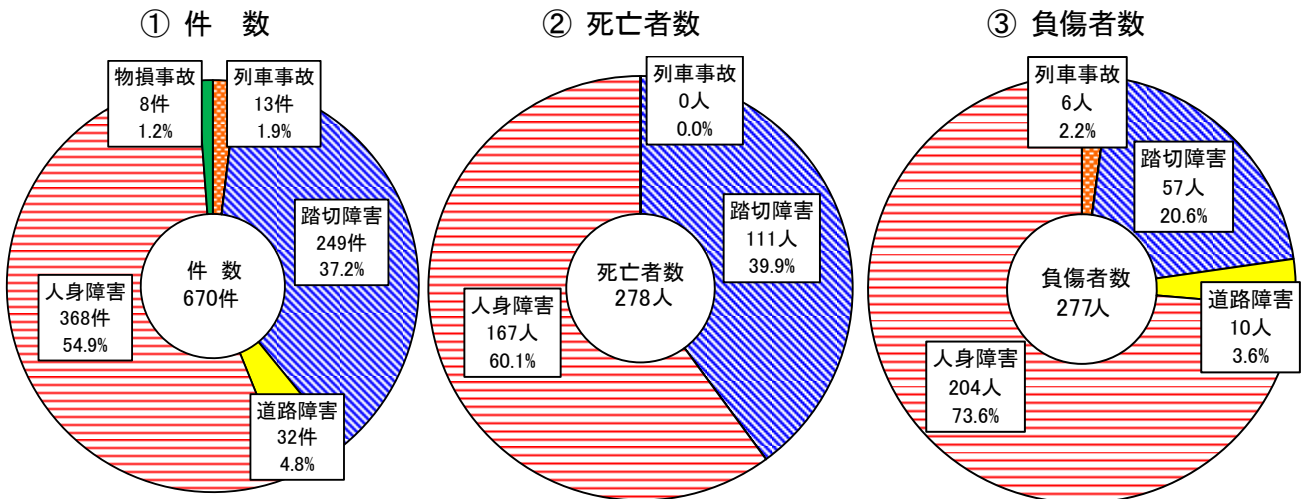


図2：運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成29年度)



2. 踏切事故

○平成29年度に発生した踏切事故は250件(対前年度27件増)、死亡者数は111人(同15人増)でした。(表1参照)

○自動車等の直前横断による踏切事故は139件(同14件増)で、踏切事故全体の55.6%を占めています。

図3: 踏切事故の件数及び死傷者数の推移

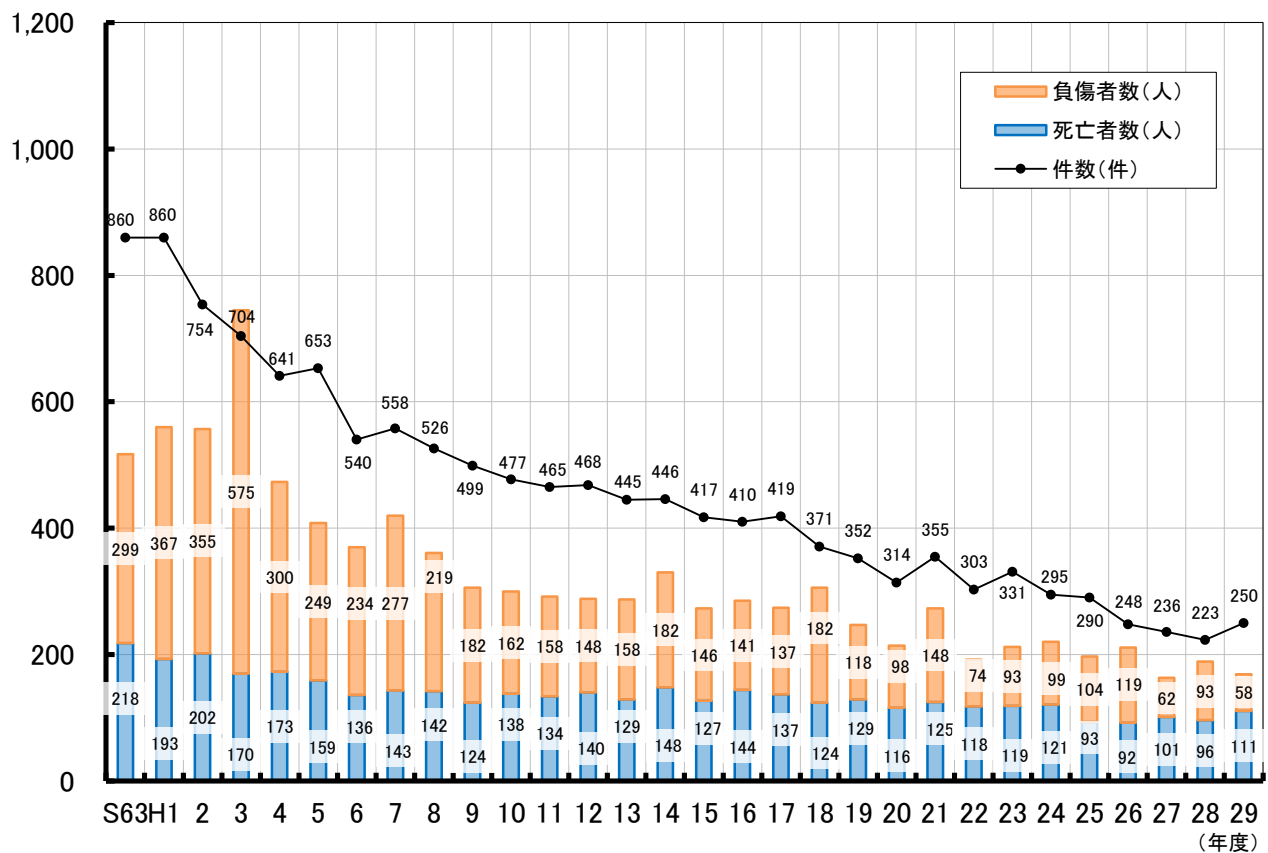
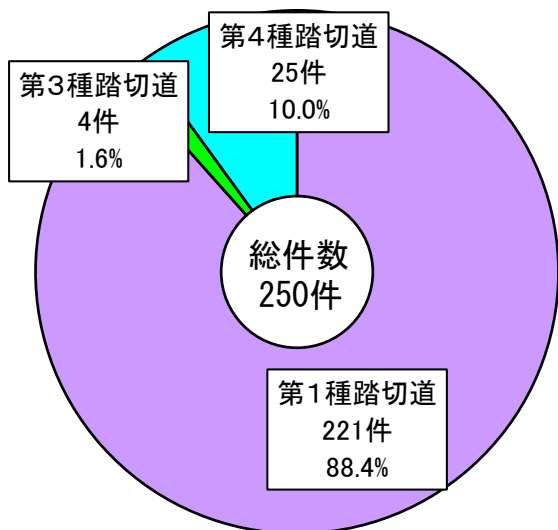
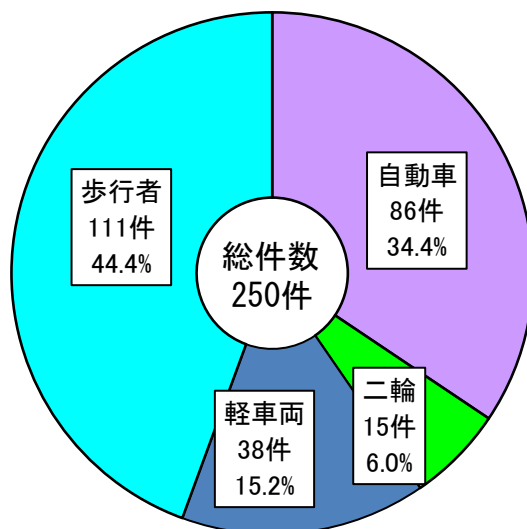


図4：踏切事故の発生状況(平成29年度)

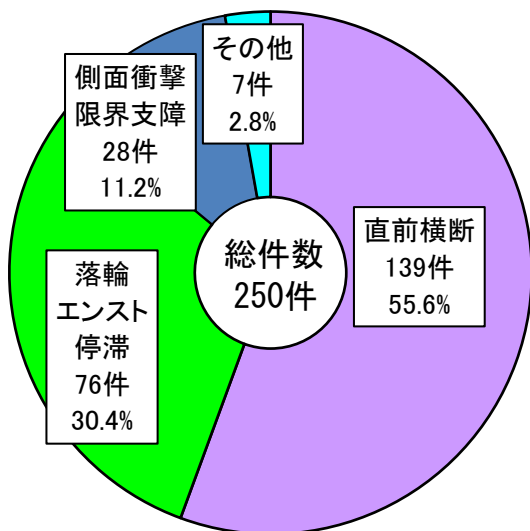
① 踏切種別別



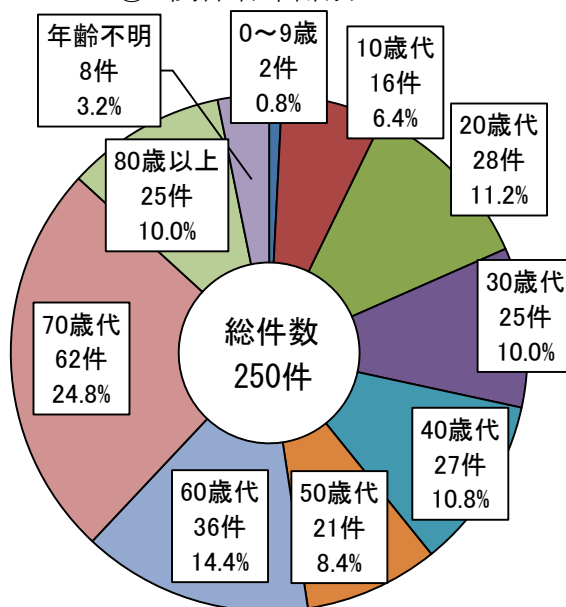
② 衝撃物別



③ 原因別



④ 関係者年齢別



3. 人身障害事故

- 平成29年度に発生した人身障害事故は368件(対前年度61件減)、死亡者数は167人(同44人減)でした。(表1参照)
- 線路内立入り等での接触による人身障害事故は188件(同42件減)、死亡者数が135人(同47人減)となっています。(表1参照)
- 「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」による人身障害事故は176件(同11件減)、死亡者数は30人(同2人増)でした。(表1参照)

図5：人身障害事故の件数及び死傷者数の推移

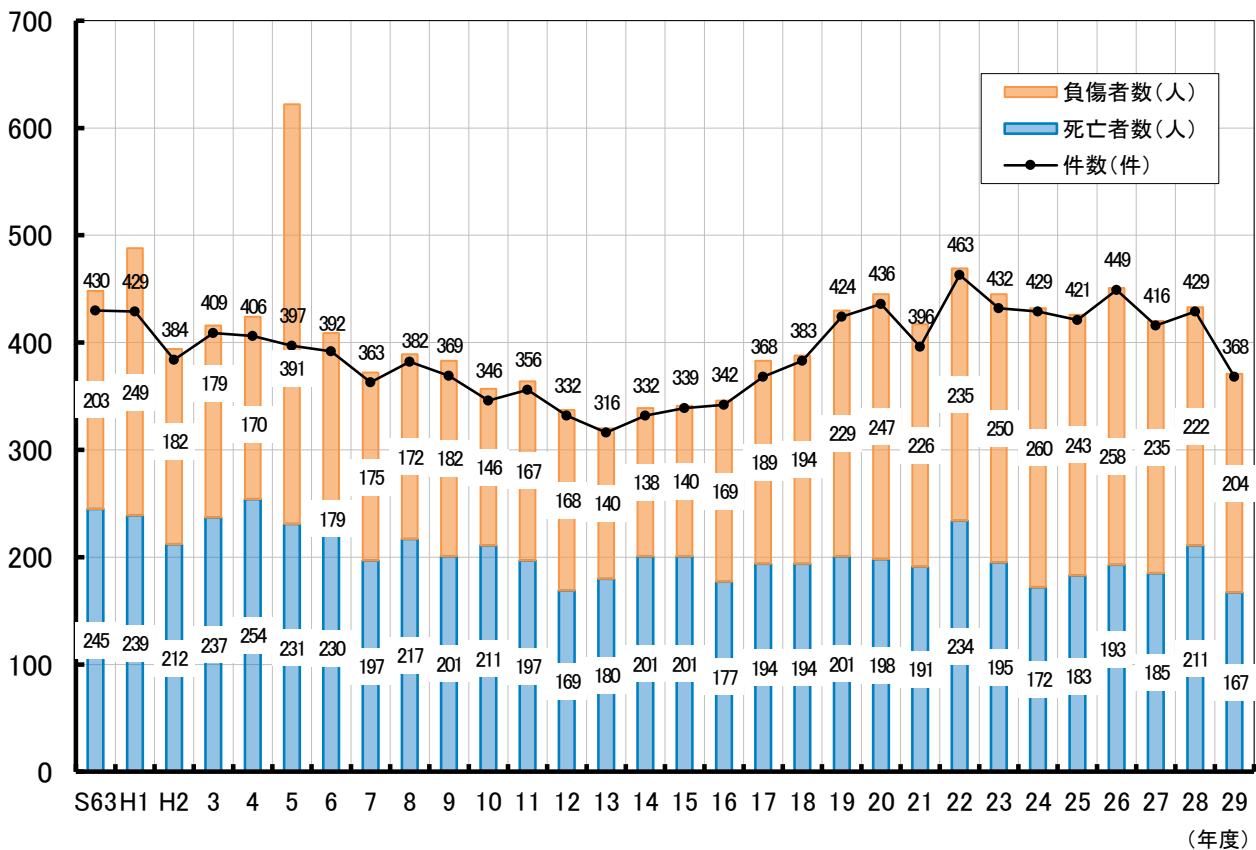


図6：人身障害事故の原因等別の件数及び死傷者数(平成29年度)

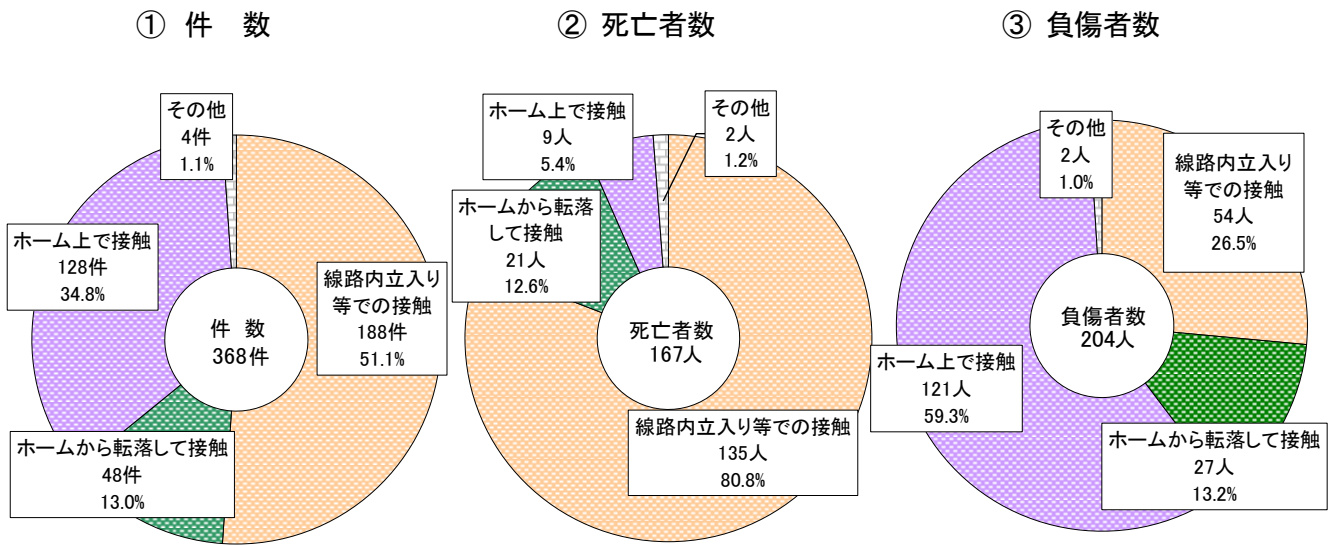
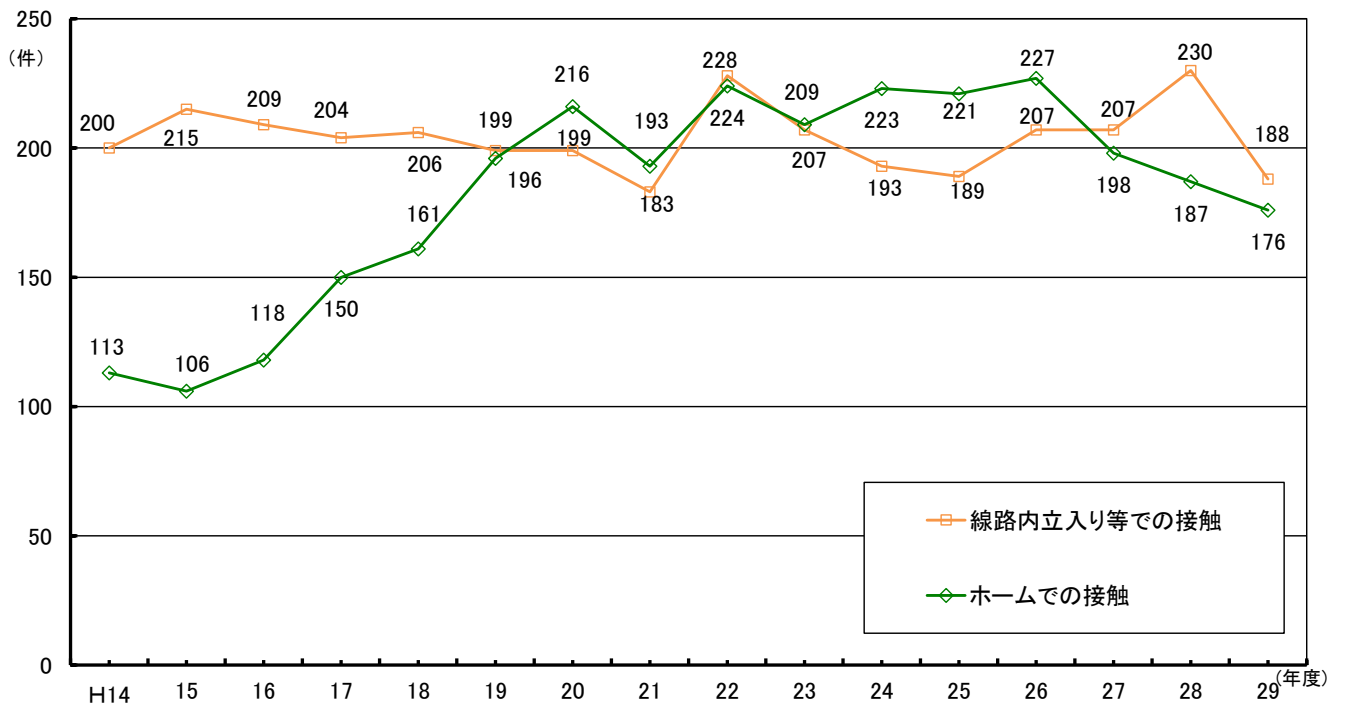


図7：ホームでの接触及び線路内立入り等での接触による人身障害事故件数の推移



4. 輸送障害

- 平成29年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は5,934件(対前年度603件増)でした。(図8参照)
- 鉄道係員、車両又は鉄道施設等に起因する輸送障害(部内原因)は、1,457件(24.6%、同84件増)でした。
- 線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,455件(41.4%、同121件増)でした。
- 風水害、雪害、地震等の自然災害による輸送障害(災害原因)は、2,022件(34.1%、同398件増)でした。

図8：輸送障害件数の推移

